

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105750
法人名	有限会社イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき2
所在地	松山市北斎院町947 - 1
自己評価作成日	平成27年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

散歩を日課とし、悪天候以外はほぼ毎日戸外にでている。その際にも近隣住民と挨拶や会話をすることで、利用者が地域の一員としてホームの生活を送ることが出来る様に努めている。利用者が馴染になった方々と、花や野菜の話をし、近隣の皆さんが日々来て下さって一緒に世話をさせて頂く。又、充実した毎日を送る事が出来る様に、日頃から利用者と共に密に関わりを持ち、利用者の希望や要望を具現化していける様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関前のプランターには季節に応じて花を植え、地域の方や利用者と一緒に手入れしている。散歩の行き帰りにひと休みできるように、テーブルセットも置いている。プランターでネギやサニーレタス、ゴーヤを植えて調理に使用したり、夏場は、居室の窓にゴーヤカーテンを作って日よけにしている。
日常的に、近くの川沿いを散歩しており、鯉にエサをやったり、鶯の飛来等も利用者の楽しみになっている。季節に応じて、初詣やお花見に出かけたり、利用者の「紅葉がきれいじゃうな」という一言が出かけるきっかけになることもある。ファミレスで外食したり、カラオケが好きな方は、近所にあるカラオケ喫茶で軽食を食べながら歌を楽しむ機会を作っている。洋服やおやつを買いに行く際には、ゆっくり選べるように時間に余裕を持って出かけるようにしている。
薬の効果や副作用等、看護師を中心に職員全員で情報を共有して知識を深めており、すべての職員が説明できるようにしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき2 (2F)

記入者(管理者)

氏名 松本 カホル

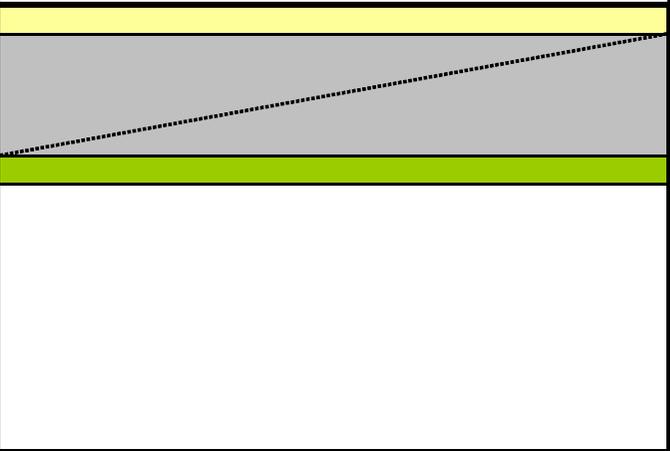
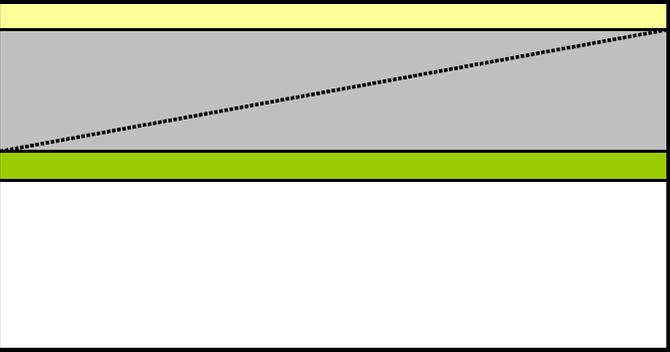
評価完了日

H 27 年 5 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を全職員が常時見える場に掲示し、又ミーティングの時に全員で唱和するなどして介護業務をする上での基本姿勢として周知徹底実践につなげている。 (外部評価) 系列グループホームと同じ理念、方針、家訓を掲げて取り組んでいる。又、家訓をもとに、「笑顔で！優しく！親切に！」と目標を立て、居間や階段、スタッフルーム等に掲示している。法人代表者や管理者は、ミーティングや日々の業務の中で家訓や目標について繰り返し話し、職員を導いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 行事の参加、買い物や特に散歩時に地域の皆様と顔見知りになり、一緒に野菜や花等育てており、利用者が楽しみにされている。ゴミ出し場の清掃、回覧板、町内会費、運営推進会議、町内会長、民生委員、見守り隊の協力等を通じて地域の一員としての自覚を持って交流できている。 (外部評価) 散歩や行事等の交流で親しくなった地域の方々が、野菜や果物を差し入れてくれたり、プランターの花の手入れや花を活かしてくれたりする。職員は、昔の夏祭りを懐かしむ利用者の声を聞き、昨夏、初めて地域の方やご家族を招待して夏祭りを開催した。利用者に出店を提案してもらったり、飾り付け等も一緒に行い楽しまれた。当日、利用者は、地域の子ども達と一緒にヨーヨー釣りや金魚すくいをしたり、盆踊り等して交流された。秋祭りには、神輿が来てくれたり、12月には、地域のしめ飾り作りに参加できるよう支援している。管理者は、地域に溶け込んだ事業所作りを目指して、今後は、「まもるくんの家」の登録を行ったり、地域住民を職員に採用する等、積極的に取り組みたいと考えていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などの機会を通じて、近況報告をしたり、ホームの行事等(防火訓練・季節の行事)に参加して頂く中で、認知症に対する理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 近況報告や行事報告、職員研修報告、又ミーティングで話し合った問題等も伝える。家族・地域の方の活発な意見が出ており、どのような意見にも傾聴し、真摯に受け止め前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長、民生委員、地域住民をはじめ高齢者見守隊、ご家族、社会福祉協議会の担当者等が参加している。毎回、事業所から利用状況や行事報告を行い、その時々に必要なことをテーマに挙げて、相談や意見交換している。今年度は、避難訓練・AED講習・認知症の勉強会を行ったり、会議と夏祭りを同一日に開催し、利用者の生活の様子を見てもらう機会も設けた。町内会長や民生委員には、事業所の新しい菜園探しや地域の草引き、花壇作りについて相談し、地域ならではの情報を教えてもらい、活動をすすめられるようアドバイスをいただいた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当者の方々も運営推進会議に出席していただいているため、その時々意見、ご指導をしっかりと受け止め、相談にのっていただいている。</p> <p>(外部評価) 市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加している。介護保険課からは、時期によって熱中症や感染症の注意喚起や市民大清掃の案内がある。地域包括支援センターからは、研修案内があったり、時には、運営推進会議のメンバーについて相談することもある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) センサーマットやベル・鈴等を活用して、転倒や転落の防止に努めると共に、見守りを強化し、目配り・気配りを怠らず、可能な限り身体拘束をしない方向でケアに取り組んでいる。又、昨年の外部評価後、出入口の戸を透明ガラス、玄関の目隠しシールを取り除き、利用者の様子が見えるようにし、可能な限り解錠に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 日中玄関は開放している。入居間もない時期に、ひとりで出かけて行方不明になった利用者もあったが、徘徊SOSネットワークや警察、地域の方にも協力を得て捜索し、早期に無事発見できたということがあった。その後、再発防止について話し合っており、ご本人のお好きなカラオケや外出等を楽しめるよう支援することで現在は、生活が落ち着いている。複数の利用者にベッド柵や車いすのベルトを使用していたが、職員で話し合い、ベッド柵については、職員の訪室回数を増やし、柵を外す時間を設け、今後は、畳を使用することも検討している。車いすのベルトについては、職員の見守り体制を整備して、ベルトを外して過ごす時間を少しずつ増やしていけるよう取り組んでいるところである。取り組み内容については、運営推進会議でも報告している。</p>	<p>利用者が自由に安全に暮らせる事業所作りを目指して、利用者の立場に立ち、環境整備に取り組まれてほしい。グループホームの意義や特性等とも照らし合わせ、ご家族とも相談しながら今後もケアの工夫を重ねていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者が安心して穏やかに過ごしていただけるような環境作りに日頃から努めており、特に職員の言動については相互に注意を払っている。この件の研修参加をよびかけ、ミーティングや又、個別の指導で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する勉強会は現時点では設けていないが、今後勉強会などで議題に取り上げ理解を深めていきたい。当ホームの成年後見人とは密に話し合い相談しながら進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用前、利用中いつでも、いかなる疑問や不安に対しても納得していただくまで丁寧に説明し、誠心誠意対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議・家族会・行事への参加の時・面会時・電話・意見箱・介護記録・金銭出納帳の閲覧等でコミュニケーションを取りながら、意見や要望に耳を傾け、真摯に対応している。 (外部評価) ご家族には、毎月の書類送付時と運営推進会議案内時に、写真を同封して日々の様子を知らせている。事業所便りは、年2回発行している。ご家族来訪時には、日々の介護記録や金銭出納帳、健康状態の記録等を必要に応じて確認してもらっている。事業所の夏祭り時に実施した「家族会」では、自己紹介後に外部評価結果について報告した。ご家族からは、「お世話になっている」「お任せします」「希望はその都度言います」等の言葉があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの他、その都度職員の意見や提案に傾聴しており、会議の場又は、ユニットごとの小集団の場で確認し合い介護の現場で実践していくように努めている。	
			(外部評価) 月1回の職員ミーティングには、毎回法人代表者も参加しており、意見がダイレクトに届き検討できる機会となっている。職員からの提案で、不十分な個所を掃除する日を決めたり、毎回食前に口腔体操を行うようになった。職員から外部研修受講の希望があれば、受講できるよう勤務調整しており、研修参加後は、ミーティングで周知し、運営推進会議でも報告している。研修に参加した職員の報告をもとに、ヒヤリ・ハット、事故報告書の様式の改善も行った。資格取得に向けては、法人が費用の半額を負担して職員のスキルアップを応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会への参加、又、各職員の力量を見極め役割分担を設ける事で、職員の意欲向上に努めている。役職の起用により、特別手当及び昇給等を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 系列のグループホームの職員同士の交流が多少はある。それ以外の同業者との交流は、研修、包括支援センター等で会議、発表会の活動を通じて、情報交換している。今後更に同業者との交流を深めていきたい。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者が入所してからホームでの生活に慣れるまで職員が常に側に寄り添い、思いや気持ちを全て受け止め、又家族の要望も聞きながら、安心して過ごしていただけるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話、思い、気持ち等全てを尊厳を持って傾聴し、受け止める事で、家族が徐々に心を開き関係作りに功を奏している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の実態をよく観察し、本人や家族と確認し合いながら何が必要かを見極め迅速に対応している。特変状態があった場合には電話で報告し連携を取り合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活のリハビリを兼ねて、掃除、洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき等、職員と一緒にしており、時には教えていただく事もある。買い物も一緒にしたり(財布は利用者へ渡す)その他残存能力を活かして出来る事は本人にして頂くよう配慮している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いや考えを受け止め(拒否することなく)日々の介護に活かしてゆく努力をしている。お互い十分に話し合い理解を深めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会で来所された時に関係の把握に努め、日頃の様子等を伝えると共に、以後の度々の面会についても依頼するようにしている。時には利用者の希望で、行きたい場所、会いたい人の支援に努めている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、職員が姉妹のお宅に出かけられるよう付き添っており、利用者が姉妹と一緒に過ごしたり、お仏壇に手を合わせられるよう支援している。調査訪問時には、数名ずつ散歩に出かけ、車いすを使用する方を他利用者が押してあげるような様子も見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの事を把握し、レクや行事その他日常生活のあらゆる場面の中で利用者同士、利用者職員がコミュニケーションを深め、より良い関係が出来るよう職員が寄り添う介護に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後、利用者がどこでどのように暮らしたいのか相談に応じ、可能な限りご希望に添うように対応できている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者の希望や意向を十分に把握しており、その人らしい生活の実現に向けて努力している。又家族の応援や支援もある。 (外部評価) 入居時の情報収集は、センター方式の様式からピックアップしたアセスメントの様式を使用している。入居後知り得た情報は、心身の状況、日常生活の状況、豊かさ、ご本人の思い等の項目に沿ってまとめ、半年ごとに更新している。職員は、利用者の以前の暮らしや、現在の状態を把握することで、個々の思いに寄り添えるよう取り組んでいる。介護記録の書き方については、市の指導をもとに、管理者が注意点をまとめ、職員で統一できるよう研修を行った。	利用者が主体の暮らしを支援していけるよう、いろいろな場面を作って情報収集に工夫を重ねていかれてほしい。さらに、得た情報を支援につなげていくような取り組みもすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や関係者(病院・地域の社会資源等)から情報の提供を受け、利用者の実態の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の実態に基づいて、担当者や職員が家族の意向も聞き又考えながら、本人の課題やニーズを把握し支援の方法について話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月に1回の見直しと、1ヶ月ごとにモニタリングの記録をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご家族に郵送しており、内容をじっくり見てもらえるようにしている。又、計画書内に、ご家族が記入する欄を設けて、意見や要望を書けるようにしているが、現在、記入される方は少ないようだ。ご家族の来訪時に、介護計画や介護記録を見てもらいながら意見や要望を聞くような時もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>食事・排泄・睡眠・入浴・バイタル・服薬・レクその他について、毎日個別に記録をし、軌道修正をしながら介護をしているための一資料としている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>心身の状態が日々変化していく利用者に考えられる色々なサービスで対応してみ、利用者の現状に即しているかどうかを軌道修正しながら支援の方法を模索している段階です。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域住民、商業施設、病院、公的機関等の協力や支援を得ながら安全かつ安心して穏やかな生活ができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の希望に対応している。協力医療機関との連携を密にしながら往診や受診の支援をし、利用者の心身の健康管理に努めている。一人ひとりの医務ノートがあり、適切な医療を受けているか、ミーティング等で話し合い、変化が出た場合には速やかに主治医、家族に伝え相談している。</p> <p>(外部評価) 受診は基本的にご家族が同行するようになってきている。ご家族の都合によっては、職員が付き添い、薬の変更があった場合は、詳細をご家族に報告している。薬の効果や副作用等、看護師を中心に職員全員で情報を共有して知識を深めており、すべての職員が説明できるようにしている。調査訪問時には、昼食後、職員は、利用者の名前と服用する薬名を声に出して伝え、飲み終わるまで見守っていた。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の心身の状態や内服薬・外用薬等について問題や異常に気付いた時は、常時看護師に相談し、迅速に対応している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入退院や緊急時に相談や迅速な対応を受け入れてもらっている協力医療機関があり、日頃から情報交換や相談をしておき、いざという時の為に備えている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所の契約を結ぶ時点で、家族と話し合い理解を得ている。利用者の心身の状態が低下してゆく段階でその都度再確認の為主治医・家族とで話し合い、方針の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 入居時には、事業所の「看取りに関する指針」に沿って説明しており、「医療行為が発生した場合には退所になる」ことについても話している。ご家族やご本人の多くが、「最期までここで」と希望しているが、現在は、入院等で退居となる場合が多い。看取りを「こわい」と感じている職員もあり、管理者は「緊急時の体制」を整え、又、看護師資格を有する職員を中心に「重度化した場合の状態の変化について」勉強会等を行う等して、職員の不安軽減に取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全ての職員に応急手当や初期対応の実践力が身に付くよう定期的に訓練をし、又ミーティング等でも話し合っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急時の連絡について訓練しており、今後も定期的を実施していく予定である。地域との協力体制は出来ている。今後、災害時の備蓄も予定している。	
			(外部評価) 8月には、運営推進会議と併せて、消防署の協力も得て火災想定避難訓練を実施した。職員は、通報訓練や利用者の避難誘導、消火訓練を行い、地域の方には利用者の見守り役をお願いした。消防署からは「初期消火」や「落ち着いて誘導すること」についてアドバイスがあった。職員ミーティング時には、避難訓練の反省会を行い、課題の解決に向けて話し合った。業者による防災設備の使用訓練やAED講習も年数回行っている。事業所では今後、地震やゲリラ豪雨に備えた訓練を実施し、又、運営推進会議時を捉えて、地域との協力体制についても働きかけていきたいと考えていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを大切にし、人としての又人生の先輩としての尊敬を持って接している。笑顔で優しく親切にをモットーに努力している。	
			(外部評価) 事業所の畑でサツマイモの収穫をした際、利用者が「芋づるは捨ててはだめ。戦時中は食べてたんよ」と言って、調理方法を教えてくださった。職員は、その通り調理して夕食の一品にして、利用者は「美味しい」「懐かしいね」とたいへん喜ばれたようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の表情や雰囲気を見逃さないで本人の思いに寄り添い自己決定が促されるよう心がけ働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意思表示ができる人にも、できない人にも肯定的に受けとめ、希望に沿って支援し、日々穏やかに過ごしていただけるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿って衣服を着用していただくよう支援している。爪切り・散髪・衣類の洗濯等、清潔保持にも留意し、時には、化粧など対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき等可能な範囲で利用者・職員と一緒に今日の食事への楽しみを語りながら行っている。食事前の口腔体操も定着し、日々楽しみにされている。 (外部評価) 食材は、八百屋やスーパーで旬の野菜や魚、肉等を買って、調理専門の職員が、「週4日は魚料理、週3日は肉料理」を目安に食事を作っている。利用者も一緒に食材の買い物に出かけ、包丁を使って調理もしている。スプーンや器等、それぞれに合わせたものを使用し、なるべくご自分の力で食事ができるような支援に努めている。調査訪問日の昼食のなますには、冬場にみなで作った干し柿が入っており、職員は、「皆で作った干し柿を入れましたよ」と利用者に話していた。お誕生日には、個々に食べたいものの希望を聞き、ちらし寿司等を作ってお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は、利用者の実態に応じて、普通食・きざみ食・ミキサー食等にして提供し、汁や茶は、必要に応じてトミ剤を使用している。塩分や糖分の摂りすぎにも留意し、食器や箸・スプーンの形状にも配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者の実態に応じて口腔ケアの介助をし(全介助・一部介助・声掛け等)口の渇きや口臭予防のため、マウスウォッシュを使用している。夜間は、義歯のポリドントを使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり排泄パターンを把握し、時間をみはからって声掛けしたり、トイレ誘導をしたりして、自立に向けた支援に努めている。	
			(外部評価) できるだけトイレで排泄できるような支援に努力をしている。ご自宅と同じように、夜間のみ居室にポータブルトイレを置いて支援する場合もある。おやつには、毎日寒天ゼリーを添えるようにして便秘解消のために工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便チェックを行い、個々人の排便状況を把握し、内服薬で調節したり、水分や野菜摂取量にも留意し、便秘予防にも取り組んでいる。又おやつには手づくり寒天ゼリーでも対応している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている0	(自己評価) 一応入浴予定日を決めているが、体調や心理状態に応じ、また本人の訴え等により柔軟に対応している。	
			(外部評価) 午後から週2～3回を目安に入浴できるよう支援している。ほとんどの方は湯船で温まれるよう支援しているが、職員が二人介助でも難しい場合はシャワー浴で対応している。その日の状態によって入浴に気が向かないような方もあるが、トイレ使用後等に脱衣所までお連れすると、入浴に気が向くようなこともある。利用者によっては、自分専用のシャンプーを使用したり、入浴剤を入れてゆっくり楽しむことがお好き方も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、日中の過ごし方に配慮している。また毎日、午後には30分程度昼寝の時間を取り心身の安定に努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者の服薬については、処方箋や看護師の説明により、その目的・副作用・用法・用量等全職員が理解している。服薬の際には、日付、名前を声に出して確認し、症状の変化に対しては、看護師に伝え迅速に対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 「他者の役に立てることが喜びである」とほとんどの利用者が思っている。野菜の皮むき・洗濯物たたみ・新聞折り・掃除機掛け・モップ掛け等生活のリハビリも兼ねて利用者の気持ちにこたえている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な日課の中に散歩を組み込み、外気や人に触れ合うことで気分転換をはかっている。その他の買い物や遠出の外出等、可能な限り利用者の希望に沿うよう支援している。また入居前に住んでた所に行ってみたい・娘に逢いたい・墓参りに行きたい等あり、家族と相談しながら支援していきたい。	
			(外部評価) 日常的に、近くの川沿いを散歩しており、鯉にエサをやったり、鶯の飛来等も利用者の楽しみになっている。季節に応じて、初詣やお花見に出かけたり、利用者の「紅葉がきれいじゃろうな」という一言が出かけるきっかけになることもある。ファミレスで外食したり、カラオケがお好きな方は、近所にあるカラオケ喫茶で軽食を食べながら歌を楽しむ機会を作っている。洋服やおやつを買いに行く際には、ゆっくり選べるように時間に余裕を持って出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物を希望する利用者には、付き添い店内での本人の好きな買い物、代金の支払い等見守り、支援する。利用者の好きな物を品揃えし、その中から各自好きな物を買うといった事もすることがある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持し、家族と連絡を取り合っている。電話や手紙のやり取りが可能な利用者については、希望があれば対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の空間は清潔と整理整頓の保持に努めている。季節の花や風物詩を壁面構成に取り入れ、季節感を感じてもらおう工夫している。</p> <p>(外部評価) 玄関前のプランターには季節に応じて花を植え、地域の方や利用者と一緒に手入れしている。散歩の行き帰りに、ひと休みできるようにテーブルセットも置いている。プランターでネギやサニーレタス、ゴーヤを植えて調理に使用したり、夏場は、居室の窓にゴーヤカーテンを作って日よけにしている。居間の壁面には鯉のぼりやアジサイの季節の貼り絵や外出や行事の写真を飾っている。台所は対面式で、居間を見渡せるようになっており、調査訪問時、職員はカウンターから見守りながら、会話や洗い物等していた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者本人のペースを大切にしながら、安心して穏やかに過ごしていただけるよう配慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使用していた家具・寝具・大切な置き物など使い慣れた馴染みの物で、居室の空間作りをし、穏やかな気持ちで、落ち着いて過ごしていただけるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) お孫さんの写真や若い頃のご自分の写真を飾ったり、ご自分で折った折り紙作品を飾っている方もあった。中には、ご家族の名前を忘れないように書いて貼っている方もあった。ご自宅から持ち込んだ鏡台に化粧品を並べ、お化粧する方もいる。テレビを置いている方は、自室でお好きな相撲中継をゆっくり見たり、ニュース等も見。本やメガネを置く位置を決めている方もあり、職員は掃除時には気を付けている。洗濯物は、利用者と一緒にタンスにしまうようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者の残存能力を活かしながら、介護用品や歩行補助具を活用し、目を離さず、手はかけすぎず自立に向けての支援をしている。</p>	